

第3節 年間指導計画の作成

1 年間指導計画の基本的な考え方

キャリア教育を教育活動全体を通じて、系統的・組織的に行うためには、計画に基づき実施する必要がある。前項で述べたように、キャリア教育の全体計画は、生徒のキャリア発達を促進するために必要とされる諸能力を、意図的・継続的に育成していくために、各学校における教育目標や育成したい能力や態度、教育内容と方法、各教科等との関連等を示すものである。それに対して、各学年における年間指導計画は、各発達の段階における能力や態度の到達目標を具体的に設定するなど、全体計画を具現化するものである。各教科、道徳、総合的な学習の時間及び特別活動の中学校学習指導要領におけるキャリア教育に関する事項を確認し、相互の関連性や系統性に留意し、有機的に関連付け、発達の段階に応じた教育活動を展開する必要がある。また、これらの指導計画は各学校の教育課程に適切に位置付けられるべきものである。

年間指導計画に盛り込む要素としては、学年・実施時期・予定時数・単元名・各単元における主な学習活動・評価などが考えられる。生徒の学習経験や発達の段階を考慮するとともに、季節や学校行事などの活動時期を生かし、各教科等との関連を見通して計画する必要がある。

(1) 年間指導計画作成の手順

年間指導計画作成の手順を以下に示す。

- ① 各学校の生徒の学年等に応じた能力や態度の目標を決定する。
- ② キャリア教育の全体計画で設定したそれぞれの能力や態度の目標に基づき、各学校の年間行事予定、学年別の年間指導計画に記載する内容を検討する。
- ③ 各教科、道徳、総合的な学習の時間、特別活動及び学級や学年の取組等を相互に関連付けた指導計画作成する。
- ④ それぞれの能力や態度の到達目標に応じた評価の視点を設定し、明確化する。

(2) 年間指導計画作成の留意点

年間指導計画の作成に当たっては、各学校における生徒の実態や発達の段階に応じた目標や内容となるよう検討する必要がある。各教科、道徳、総合的な学習の時間、特別活動及び学級や学年の取組等の具体的な計画を体系的に作成し、それぞれのねらいや内容を踏まえた上で、関連付ける。また、中学校学習指導要領との関連を考慮した上で、評価の視点についても検討する必要がある。こうして作成した各学校の計画については、教職員や保護者、地域が共通理解をもち、連携していくことが大切である。

年間指導計画作成の留意点を以下に示す。

- 各学校の生徒の実態や発達の段階に応じた目標や内容にする。
- 各教科、道徳、総合的な学習の時間、特別活動及び学級や学年の取組等、それぞれのねらいや内容を踏まえて関連付けを図る。
- 中学校3年間を通じ生徒のキャリア発達を支援できるよう、具体的で系統的なものとする。
- 各教科、道徳、総合的な学習の時間及び特別活動の中学校学習指導要領との関連を図る。
- 評価の視点等を考慮し、評価方法を検討する。
- 家庭や地域、学校間の連携を考慮する。

(3)年間指導計画作成の効果

年間指導計画作成することで得られる効果としては、次のようなことが考えられる。

- 学年別年間指導計画作成することで、発達の段階に応じて学年を通したキャリア発達を支援できる。
- 発達の段階や学年に応じた身に付けさせたい能力や態度の到達目標が明確になる。
- 年間の学年における活動がどのような能力や態度の育成を図ろうとするものが明確になる。
- 各教科、道徳、総合的な学習の時間、特別活動及び学級や学年の取組等がどのように関連付けられているか明確になる。

2 各教科と年間指導計画

教科ごとに学年別年間指導計画作成する場合は、実施時期・予定時数・単元名・各単元における主な学習活動を明確にするとともに、中学校学習指導要領に書かれているキャリア教育との関連やキャリア発達能力とのかかわりを記載することで、教科におけるキャリア教育とのかかわりが明確になり、体系的・系統的な指導が可能となる。

その際、キャリア教育実践の機会となり得る単元や教育活動を詳細に見出す作業(いわゆる「洗い出し」の作業)と、教科を通したキャリア教育の年間指導計画作成との混同を避けることは重要である。

例えば、キャリア教育を通して育成する「基礎的・汎用的能力」の一つである「課題対応能力」には、情報を正しく理解するための能力が含まれるが、この力を育成する機会となり得る単元等は教科を問わず数多い。「国語」における「読むこと」では、本や文章などから必要な情報を集め目的に応じた情報を読み取る力の育成は主要課題の一つであるし、「社会」の「地理的分野」における地域に関する情報の収集や処理、「理科」における観察や実験の過程での情報の検索や処理などもその具体例となろう。また、授業中に板書された課題文を正しく読み取ることなどを視野におさめれば、情報を正しく理解するための能力の育成に寄与し得る教育活動は、文字通り無数にある。キャリア教育の実践の機会となり得る単元や教育活動を広く見出し、それを列挙することは、教科を通したキャリア教育の年間指導計画作成にとって有効な基礎作業の一つであるが、このような作業によって挙げられた膨大な数の単元等を、例えば一覧表形式に整理したとしても、それをそのまま指導計画として見なすことできない。なぜなら、その一覧は、キャリア教育の実践の機会として活用し得る可能性が高い場の羅列に過ぎず、キャリア教育の一環としての教育意図に基づく指導実践の計画にはなっていないからである。

このような「洗い出し」の作業によって列挙された単元等のうち、学校ごとに設定したキャリア教育の目標や他の教科等との関連性を勘案しながら、社会的・職業的自立に向けその基盤となる能力や態度を育てるためのキャリア教育の一環として、どこに焦点を当てようとしているかを検討し、教育意図に基づいて実践する具体的な単元等を特定していくことが、体系的・系統的な指導にとって不可欠である。それぞれの生徒に学びの意義を認識させるにあたり、自らの将来との関係を特に意識させることが授業のねらいを実現する上でも効果的に働く単元等を見だし、授業を改善するきっかけとしてキャリア教育の視点を生かすことが求められている。

<中学校学習指導要領におけるキャリア教育に特に関連が深い主な目標・内容等の例>

次の表は、中学校学習指導要領におけるキャリア教育に特に関連が深い主な目標・内容等の例である。

(国立教育政策研究所生徒指導研究センター 『「キャリア教育」資料集』平成21年度増補版より抜粋)

(1)国語

第2 各学年の目標及び内容

〔第2学年〕

1 目標

- (1) 目的や場面に応じ、社会生活にかかわることなどについて立場や考えの違いを踏まえて話す能力、考えを比べながら聞く能力、相手の立場を尊重して話し合う能力を身に付けさせるとともに、話したり聞いたりして考えを広げようとする態度を育てる。

〔第3学年〕

1 目標

- (1) 目的や場面に応じ、社会生活にかかわることなどについて相手や場に応じて話す能力、表現の工夫を評価して聞く能力、課題の解決に向けて話し合う能力を身に付けさせるとともに、話したり聞いたりして考えを深めようとする態度を育てる。

第3 指導計画の作成と内容の取扱い

- 3 教材については、次の事項に留意するものとする。

- (2) 教材は、次のような観点に配慮して取り上げること。

オ 人生について考えを深め、豊かな人間性を養い、たくましく生きる意志を育てるのに役立つこと。

(2)社会

〔公民的分野〕

1 目標

- (1) 個人の尊厳と人権の尊重の意義、特に自由・権利と責任・義務の関係を広い視野から正しく認識させ、民主主義に関する理解を深めるとともに、国民主権を担う公民として必要な基礎的教養を培う。
- (2) 民主政治の意義、国民の生活の向上と経済活動とのかかわり及び現代の社会生活などについて、個人と社会とのかかわりを中心に理解を深め、現代社会についての見方や考え方の基礎を養うとともに、社会の諸問題に着目させ、自ら考えようとする態度を育てる。

2 内容

- (1) 私たちと現代社会

イ 現代社会をとらえる見方や考え方

人間は本来社会的存在であることに着目させ、社会生活における物事の決定の仕方、きまりの意義について考えさせ、現代社会をとらえる見方や考え方の基礎として、対立と合意、効率と公正などについて理解させる。その際、個人の尊厳と両性の本質的平等、契約の重要性やそれを守ることの意義及び個人の責任などに気付かせる。

- (2) 私たちと経済

ア 市場の働きと経済

身近な消費生活を中心に経済活動の意義を理解させるとともに、価格の働きに着目させて市場経済の基本的な考え方について理解させる。また、現代の生産や金融などの仕組みや働きを理解させるとともに、社会における企業の役割と責任について考えさせる。その際、

社会生活における職業の意義と役割及び雇用と労働条件の改善について、勤労の権利と義務、労働組合の意義及び労働基準法の本質と関連付けて考えさせる。

イ 国民の生活と政府の役割

国民の生活と福祉の向上を図るために、社会資本の整備、公害の防止など環境の保全、社会保障の充実、消費者の保護など、市場の働きにゆだねることが難しい諸問題に関して、国や地方公共団体が果たしている役割について考えさせる。また、財源の確保と配分という観点から財政の役割について考えさせる。その際、租税の意義と役割について考えさせるとともに、国民の納税の義務について理解させる。

(3)数学

第2 各学年の目標及び内容

〔第1学年〕

2 内容

〔数学的活動〕

(1) 「A数と式」、「B図形」、「C関数」及び「D資料の活用」の学習やそれらを相互に関連付けた学習において、次のような数学的活動に取り組む機会を設けるものとする。

イ 日常生活で数学を利用する活動

(4)理科

第2 各分野の目標及び内容

〔第1分野〕

1 目標

(4) 物質やエネルギーに関する事物・現象を調べる活動を行い、これらの活動を通して科学技術の発展と人間生活とのかかわりについて認識を深め、科学的に考える態度を養うとともに、自然を総合的に見ることができるようにする。

2 内容

(7) 科学技術と人間

エネルギー資源の利用や科学技術の発展と人間生活とのかかわりについて認識を深め、自然環境の保全と科学技術の利用の在り方について科学的に考察し判断する態度を養う。

第3 指導計画の作成と内容の取扱い

2 各分野の内容の指導については、次の事項に配慮するものとする。

(3) 科学技術が日常生活や社会を豊かにしていることや安全性の向上に役立っていることに触れること。また、理科で学習することが様々な職業などと関係していることにも触れること。

(5)音楽

第2 各学年の目標及び内容

〔第1学年〕

1 目標

(1) 音楽活動の楽しさを体験することを通して、音や音楽への興味・関心を養い、音楽によって生活を明るく豊かなものにする態度を育てる。

〔第2学年及び第3学年〕

1 目標

- (1) 音楽活動の楽しさを体験することを通して、音や音楽への興味・関心を高め、音楽によって生活を明るく豊かなものにし、生涯にわたって音楽に親しんでいく態度を育てる。

第3 指導計画の作成と内容の取扱い

- 2 第2の内容の指導については、次の事項に配慮するものとする。

- (7) 各学年の「A表現」及び「B鑑賞」の指導に当たっては、次の通り取り扱うこと。
イ 適宜、自然音や環境音などについても取り扱い、音環境への関心を高めたり、音や音楽が生活に果たす役割を考えさせたりするなど、生徒が音や音楽と生活や社会とのかかわりを実感できるような指導を工夫すること。また、コンピュータや教育機器の活用も工夫すること。

(6)美術

第2 各学年の目標及び内容

〔第1学年〕

1 目標

- (1) 楽しく美術の活動に取り組み美術を愛好する心情を培い、心豊かな生活を創造していく意欲と態度を育てる。

〔第2学年及び第3学年〕

1 目標

- (1) 主体的に美術の活動に取り組み美術を愛好する心情を深め、心豊かな生活を創造していく意欲と態度を高める。
(3) 自然の造形、美術作品や文化遺産などについての理解や見方を深め、心豊かに生きることと美術とのかかわりに関心を持ち、よさや美しさなどを味わう鑑賞の能力を高める。

2 内容

B 鑑賞

- (1) 美術作品などのよさや美しさを感じ取り味わう活動を通して、鑑賞に関する次の事項を指導する。

イ 美術作品などに取り入れられている自然のよさや、自然や身近な環境の中に見られる造形的な美しさなどを感じ取り、安らぎや自然との共生などの視点から、生活を美しく豊かにする美術の働きについて理解すること。

(7)保健体育

第1 目標

心と体を一体としてとらえ、運動や健康・安全についての理解と運動の合理的な実践を通して、生涯にわたって運動に親しむ資質や能力を育てるとともに健康の保持増進のための実践力の育成と体力の向上を図り、明るく豊かな生活を営む態度を育てる。

第2 各分野の目標及び内容

〔体育分野 第1学年及び第2学年〕

1 目標

- (3) 運動における競争や協同の経験を通して、公正に取り組む、互いに協力する、自己の役割を果たすなどの意欲を育てるとともに、健康・安全に留意し、自己の最善を尽くして運動をする態度を育てる。

〔体育分野 第3学年〕

1 目標

- (3) 運動における競争や協同の経験を通して、公正に取り組む、互いに協力する、自己の責任を果たす、参画するなどの意欲を育てるとともに、健康・安全を確保して、生涯にわたって運動に親しむ態度を育てる。

〔保健分野〕

1 目標

個人生活における健康・安全に関する理解を通して、生涯を通じて自らの健康を適切に管理し、改善していく資質や能力を育てる。

2 内容

- (1) 心身の機能の発達と心の健康について理解できるようにする。
- ア 身体には、多くの器官が発育し、それに伴い、様々な機能が発達する時期があること。また、発育・発達の時局やその程度には、個人差があること。
 - イ 思春期には、内分泌の働きによって生殖にかかわる機能が成熟すること。また、成熟に伴う変化に対応した適切な行動が必要となること。
 - ウ 知的機能、情意機能、社会性などの精神機能は、生活経験などの影響を受けて発達すること。また、思春期においては、自己の認識が深まり、自己形成がなされること。
 - エ 精神と身体は、相互に影響を与え、かかわっていること。欲求やストレスは、心身に影響を与えることがあること。また、心の健康を保つには、欲求やストレスに適切に対処する必要があること。
- (2) 健康と環境について理解できるようにする。
- ア 身体には、環境に対してある程度まで適応能力があること。身体の適応能力を超えた環境は、健康に影響を及ぼすことがあること。また、快適で能率のよい生活を送るための温度、湿度や明るさには一定の範囲があること。
 - イ 飲料水や空気は、健康と密接なかわりがあること。また、飲料水や空気を衛生的に保つには、基準に適合するよう管理する必要があること。
 - ウ 人間の生活によって生じた廃棄物は、環境の保全に十分配慮し、環境を汚染しないように衛生的に処理する必要があること。

(8)技術・家庭

第1 目標

生活に必要な基礎的・基本的な知識及び技術の習得を通して、生活と技術とのかかわりについて理解を深め、進んで生活を工夫し創造する能力と実践的な態度を育てる。

第2 各分野の目標及び内容

〔技術分野〕

2 内容

A 材料と加工に関する技術

- (1) 生活や産業の中で利用されている技術について、次の事項を指導する。
- ア 技術が生活の向上や産業の継承と発展に果たしている役割について考えること。

〔家庭分野〕

1 目標

衣食住などに関する実践的・体験的な学習活動を通して、生活の自立に必要な基礎的・基本的な知識及び技術を習得するとともに、家庭の機能について理解を深め、これからの生活を展望して、課題をもって生活をよりよくしようとする能力と態度を育てる。

2 内容

A 家族・家庭と子どもの成長

(1) 自分の成長と家族について、次の事項を指導する。

ア 自分の成長と家族や家庭生活とのかかわりについて考えること。

(2) 家庭と家族関係について、次の事項を指導する。

ア 家庭や家族の基本的な機能と、家庭生活と地域とのかかわりについて理解すること。

イ これからの自分と家族とのかかわりに関心を持ち、家族関係をよりよくする方法を考えること。

(9)外国語

第1 目標

外国語を通じて、言語や文化に対する理解を深め、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成を図り、聞くこと、話すこと、読むこと、書くことなどのコミュニケーション能力の基礎を養う。

3 道徳と年間指導計画

道徳の年間指導計画の作成に当たっては、道徳教育の全体計画に基づき、各教科、総合的な学習の時間及び特別活動との関連を考慮しながら、計画的、発展的に授業がなされるよう工夫することが大切である。その際、学年段階ごとの内容項目については、生徒や学校の実態に応じて、学年間を見通した重点的な指導や内容項目間の関連を密にした指導を行うよう工夫することが必要である。キャリア教育との関連においては、特に「個性を伸ばして充実した生き方を追求する」「自己が属する様々な集団の意義についての理解を深め、役割と責任を自覚し集団の生活の向上に努める」「勤労の尊さや意義の理解」「公共の福祉と社会の発展に努める」などの内容について指導を工夫するとともに、その学年の学校行事や学級活動などとの関連を考慮し、実施時期・予定時数・主題名を記載することで、キャリア教育とのかかわりを明確にすることが望ましい。

(1)中学校学習指導要領におけるキャリア教育に特に関連が深い主な目標・内容の例

次の表は、中学校学習指導要領におけるキャリア教育に特に関連が深い主な目標・内容等の例である。(国立教育政策研究所生徒指導研究センター『「キャリア教育」資料集』平成21年度増補版より抜粋)

第1 目標

道徳教育の目標は、第1章総則の第1の2に示すところにより、学校の教育活動全体を通じて、道徳的な心情、判断力、実践意欲と態度などの道徳性を養うこととする。道徳の時間においては、以上の道徳教育の目標に基づき、各教科、総合的な学習の時間及び特別活動における道徳教育と密接な関連を図りながら、計画的、発展的な指導によってこれを補充、深化、統合し、道徳的価値及びそれに基づいた人間としての生き方についての自覚を深め、道徳的実践力

を育成するものとする。

第2 内容

道徳の時間を要として学校の教育活動全体を通じて行う道徳教育の内容は、次の通りとする。

- 1 主として自分自身に関すること。
 - (1) 望ましい生活習慣を身に付け、心身の健康の増進を図り、節度を守り節制に心掛け調和のある生活をする。
 - (5) 自己を見つめ、自己の向上を図るとともに、個性を伸ばして充実した生き方を追求する。
- 2 主として他の人とのかかわりに関すること。
 - (5) それぞれの個性や立場を尊重し、いろいろなものの見方や考え方があることを理解して、寛容の心をもち謙虚に他に学ぶ。
 - (6) 多くの人々の善意や支えにより、日々の生活や現在の自分があることに感謝し、それにこたえる。
- 3 主として自然や崇高なものとのかかわりに関すること。
 - (3) 人間には弱さや醜さを克服する強さや気高さがあることを信じて、人間として生きること
に喜びを見いだすように努める。
- 4 主として集団や社会とのかかわりに関すること。
 - (4) 自己が属する様々な集団の意義についての理解を深め、役割と責任を自覚し集団生活の向上に努める。
 - (5) 勤労の尊さや意義を理解し、奉仕の精神をもって、公共の福祉と社会の発展に努める。
 - (6) 父母、祖父母に敬愛の念を深め、家族の一員としての自覚をもって充実した家庭生活を築く。
 - (8) 地域社会の一員としての自覚をもって郷土を愛し、社会に尽くした先人や高齢者に尊敬と感謝の念を深め、郷土の発展に努める。

第3 指導計画の作成と内容の取扱い

- 1 各学校においては、校長の方針の下に、道徳教育の推進を主に担当する教師（以下「道徳教育推進教師」という。）を中心に、全教師が協力して道徳教育を展開するため、次に示すところにより、道徳教育の全体計画と道徳の時間の年間指導計画を作成するものとする。
 - (3) 各学校においては、生徒の発達の段階や特性等を踏まえ、指導内容の重点化を図ること。特に、自他の生命を尊重し、規律ある生活ができ、自分の将来を考え、法やきまりの意義の理解を深め、主体的に社会の形成に参画し、国際社会に生きる日本人としての自覚を身に付けるようにすることなどに配慮し、生徒や学校の実態に応じた指導を行うよう工夫すること。また、悩みや葛藤等の思春期の心の揺れ、人間関係の理解等の課題を積極的に取り上げ、道徳的価値に基づいた人間としての生き方について考えを深められるよう配慮すること。

(2)道徳の年間指導計画の具体例<第2学年>

道徳の時間では道徳的価値の自覚を深めることを通して、道徳的実践力が育つように指導を工夫する。

時期	時数	内 容	関連した活動	キャリア教育との関連
4月	1	4-(4)「役割と責任」 集団の中で自分の役割と責任を自覚し、集団生活の向上を目指す。	・係活動 ・生徒会活動	自己が属する集団の意義について理解を深め、 <u>役割と責任を自覚し集団生活の向上に努める。</u>
	1	1-(5)「個性の伸長」 自分の良さや個性を見つけ、伸ばしていくようにする。	・適性検査 ・職業調査	自己を見つめ、自己の向上を図り、 <u>個性を伸ばして、充実した生き方を追求する。</u>
5月	2	4-(5)「勤労・奉仕」 勤労の尊さや意義を理解し、奉仕の精神をもって社会に関わっていくようにする。	・職業調査 ・職場体験活動	<u>働くことについての理解を通して、職業についての正しい考え方や公共の福祉に努める態度を培う。</u>

4 総合的な学習の時間と年間指導計画

総合的な学習の時間の年間指導計画の作成に当たっては、学校行事や各教科等の学習に配慮することはもちろん、学校が位置している地域の地理や気候風土などの自然事象にかかわる特色、産業や公共施設などの社会事象にかかわる特色、地域の年中行事や歴史などの地域文化にかかわる特色など、総合的な学習の時間を有意義なものとする地域素材を十分に吟味して作成するとともに、問題の解決や探究活動となるよう計画することが肝要である。特にキャリア教育との関連においては、「自己の生き方を考えることができるようにすること」を重点に、職業や進路に関する調査や話し合い、地域での職場体験活動などを通して、生徒が自己の生き方を具体的、実際的なものとして考えることができるよう、キャリア教育とのかかわりを明確にすることが望ましい。

(1)中学校学習指導要領におけるキャリア教育に特に関連が深い主な目標・内容の例

総合的な学習の時間は、「自己の生き方を考えることができるようにする」を目標の一部としており、中学校の学習活動の例として「職業や自己の将来に関する学習活動」が示されている。また、「職場体験活動」などの学習活動を積極的に取り入れることが示されており、社会的・職業的自立に向けたキャリア発達を促す教育であるキャリア教育とは深くかかわっている。

さらに、職業や自己の将来に関する学習活動を行う際には、探究活動を通して、自己理解や将来の生き方を考えるなどの学習活動が行われるようにすることが求められており、こうした学習を行うことによって、社会的・職業的自立に向けて必要な基盤となる能力や態度の育成を図ることができると考えられる。

次の表は、中学校学習指導要領第4章「総合的な学習の時間」におけるキャリア教育に特に関連が深い主な目標・内容の例示である。(国立教育政策研究所 生徒指導研究センター 『「キャリア教育」資料集』平成21年度増補版より抜粋)

第1 目標

横断的・総合的な学習や探究的な学習を通して、自ら課題を見付け、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、よりよく問題を解決する資質や能力を育成するとともに、学び方やものの考え方を身に付け、問題の解決や探究活動に主体的、創造的、協同的に取り組む態度を育て、**自**

己の生き方を考えることができるようにする。

第3 指導計画の作成と内容の取扱い

2 第2の内容の取扱いについては、次の事項に配慮するものとする。

- (3) 自然体験や職場体験活動、ボランティア活動などの社会体験、ものづくり、生産活動などの体験活動、観察・実験、見学や調査、発表や討論などの学習活動を積極的に取り入れること。
- (7) 職業や自己の将来に関する学習を行う際には、問題の解決や探究活動に取り組むことを通して、自己を理解し、将来の生き方を考えるなどの学習活動が行われるようにすること。

(2)総合的な学習の時間の年間指導計画の具体例<第2学年>

総合的な学習の時間の目標は、「横断的・総合的な学習や探究的な学習を通して、」①「自ら課題を見付け、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、よりよく問題を解決する資質や能力を育成する」こと、②「学び方やものの考え方を身に付け」ること、③「問題の解決や探究活動に主体的、創造的、協同的に取り組む態度を育て」ること、④「自己の生き方を考えることができるようにする」ことであり、この目標を達成することはキャリア教育にもつながっている。その取組として次に具体例を示す。

時期	時数	主な学習活動	キャリア教育との関連	教科等との関連
4月	4	『私たちの未来へ』 「職業について理解しよう」 ①課題をとらえ、単元計画を立てる。 ②今の自分の夢や適性をとらえる。	調査・講話などから課題を把握し、情報を整理・分析・まとめるなどの探究的な活動を通して、 <u>自分とのかかわりから職業について考えられるようにする。</u>	<特別活動> 「集団の一員としての自覚と責任」「自分を知る」 <道徳>「役割と責任」「個性の伸長」 <国語> 「A話すこと・聞くこと」 (1)オ 相手の立場や考えを尊重し、目的に沿って話し合い、互いの発言を検討して自分の考えを広げること。
5月	8	③職業人の話を聞いて職業について考える。 ④職業調べや企業調べをする。	職場体験活動が探究的な学習となるよう、 <u>自分の課題をとらえ、職業理解や自己理解が深まるようにする。</u>	<道徳>「勤労・奉仕」
6月	4	「未来への一歩」 ①職場体験活動オリエンテーション		<特別活動> 「働く意義を考える」 「職場体験活動」 <道徳>「礼儀」 <国語> 「A話すこと・聞くこと」(1)オ 「B書くこと」(1)イ
7月	30	②職場体験活動		